「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」
学際領域学科

令和４年度研究開発成果物
（第１年次）

北海道釧路湖陵高等学校

目　次

1　研究開発イメージ図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
2　令和５年度入学者教育課程表（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P２
3　学校設定教科に関する科目「KQⅠ」シラバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P４
4　ロジックモデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P６
5　コンソーシアム「チーム湖陵」ポンチ絵・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P７
6　コンソーシアム「チーム湖陵」設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P８
7　第１回コンソーシアム会議開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
8　道外先進校等の訪問の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P11
9　令和５年度 SSH 成果発表会、総合的な探究の時間成果発表会要項・・・・・・・・・・P17
10　普通科新学科通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P19
11　普通科新学科設置告知ポスター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P34

【北海道釧路湖陵高等学校】学際領域学科（設置（令和６年度））

【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

○　現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定科目「ＫＱ(Koryo Quest)Ⅰ～Ⅲ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動を展開する。

○　外部人材を積極的に活用し、課題解決に必要な資質・能力の伸長に資する教科等横断的な学習を推進することで、高校卒業後の高等教育機関での学びや、実社会に関わる課題の解決に対応したこれからの普通科の教育のモデルとしての役割を果たす。

【成果】

○　校内、地域内における新学科への理解の促進
・新学科通信の発行、ポスターの作成

○　道外の同一事業実施高校との連携体制の構築
・視察研修、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築

○　学校教設定教科・科目への期待
・探究活動の理論や技法の習得
・様々な学問領域を横断した新しい教科・科目の教育プログラム骨子の完成

【課題】

●　国外の高校、大学等との連携
・関係機関との連携体制の更なる強化

●　事業成果の適切な評価の実施
・長期的な視点での事業成果の正確な把握

●　コンソーシアムと学校の共通理解・関係構築
・コンソーシアムを効果的に活用するノウハウの蓄積

●　事業終了後（令和７年度以降）の自走できる校内体制構築
・事業終了後の持続可能な体制づくり

【令和５年度の目標】へ

【取組状況】

①学校教育と地域に精通した人材の確保
②全国50以上のコンソーシアムメンバーの確保
③同事業実施校を訪問、情報交換の実施と連携体制の構築
④令和６年度新学科設置に向けて協議中
⑤Ｒ５から新学科に係る教育課程の一部を先行実施
⑥学校設定教科「KQ」における体系的なプログラムの作成
⑦専門家による評価及び次年度に向けた取組への指導・助言
⑧ニュージーランド及び東南アジア６カ国とオンライン交流
⑨事業2年目に向けた課題の明確化、事業内容の充実を図る評価の実施

【令和４年度の目標】

①コーディネーターの適切な人材配置と業務内容の明確化
②関係機関とのコンソーシアムの構築
③先進校視察による情報共有と連携体制の構築
④新学科に係るスクール・ポリシーの策定
⑤新学科の設置に向けた教育課程の検討
⑥新学科の設置に向けた総合的な探究の時間及び学校設定教科に関する科目の内容の精査
⑦運営指導委員会（年２回）の開催
⑧海外の高校とのオンライン交流
⑨次年度に向け、事業１年目の成果検証、評価

教育プログラムの作成

コーディネーター

教育プログラム実施時の連携

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

コンソーシアム「チーム湖陵」の設置

湖陵高校

プロモーター
釧路市内コンソーシアムメンバーで構成

支援

支援

サポーター
釧路市外コンソーシアムメンバーで構成

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動のテーマに対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを構築(プロモーター約25団体、サポーター約30団体が参加)

別紙様式５

令和5年度　入学者教育課程表(案)

A　表

教育局	釧路

（表　面）

北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程

学科	普通科

第1学年の学級数	5

教科	科目・標準単位数 ＼ 学年	類型	1年	2年 文型	2年 理型	3年 文型	3年 理型α	3年 理型β	計 文型	計 理型α	計 理型β
国語	現代の国語	2	2						3	3	
	言語文化	2	2						2	2	
	論理国語	4		2		2			4		
	文学国語	4		2	2	2	2		4	4	
	国語表現	4									
	古典探究	4		2	2	2	2		4	4	
地理歴史	地理総合	2	2						2	2	
	地理探究	3		3	3				0～3	0～3	
	歴史総合	2	2						2	2	
	日本史探究	3		3	3				0～3	0～3	
	世界史探究	3		3	3				0～3	0～3	
	○ゼミナール地理	3				3	3		0～3	0～3	
	○発展日本史	3				3	3		0～3	0～3	
	○発展世界史	3				3	3	3	0～3	0～3	
公民	公共	2		2	2				2	2	
	倫理	2				2			2		
	政治・経済	2				2			2		
	○時事問題研究	3					3			0～3	
数学	数学Ⅰ	3	3						3	3	
	数学Ⅱ	4									
	数学Ⅲ	3									
	数学A	2									
	数学B	2									
	数学C	2									
	○数学研究Ⅰ	2				2			2		
	○数学研究Ⅱ	2				2			0～2		
	○KS数学Ⅰ	2	2						2	2	
	○KS数学Ⅱ	6		6	6				6	6	
	○KS数学Ⅲ	6					6			0～6	
	○KS数学探究	6						6		0～6	
理科	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2						2	2	
	物理	4									
	化学基礎	2		2	2				0～2	2	
	化学	4									
	生物基礎	2	2	2					2	2	
	生物	4									
	地学基礎	2		2					0～2		
	地学	4									
	○KS物理	2～5			2	2	3		0～2	0～5	
	○KS化学	2～5			2	2	5	3	0～2	5	
	○KS生物	2～5			2	4 2	3		0～4	0～5	
	○KS地学	2				2			0～2		
保健体育	体育	7～8	2	2	2	3	3		7	7	
	保健	2	1	1	1				2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2						0～2	0～2	
	音楽Ⅱ	2									
	音楽Ⅲ	2									
	美術Ⅰ	2	2						0～2	0～2	
	美術Ⅱ	2									
	美術Ⅲ	2	2								
	工芸Ⅰ	2				2					
	工芸Ⅱ	2									
	工芸Ⅲ	2									
	書道Ⅰ	2	2						0～2	0～2	
	書道Ⅱ	2									
	書道Ⅲ	2									
	○音楽表現	2				2			0～2		
	○美術表現	2				2			0～2		
	○書道表現	2				2			0～2		

A　表

（ 裏 面 ）

北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	普通科

教科	科目・標準単位数 ＼ 学年・類型		1 年	2 年 文型	2 年 理型	3 年 文型	3 年 理型α	3 年 理型β	計 文型	計 理型α	計 理型β
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3	3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4				4	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2									
	論理・表現Ⅱ	2		2	2				2	2	
	論理・表現Ⅲ	2				2	2		2	2	
	○応用英語	2				2			0～2		
	○ＳＳ英語	2	2						2	2	
家庭	家庭基礎	2	2						2	2	
	家庭総合	4									
情報	情報Ⅰ	2									
	情報Ⅱ	2									
	○ＳＳ情報	2		2	2				2	2	
理数	理数探究基礎	1									
	理数探究	2～5									
総合	○ＫＱⅠ	2	2						2	2	
	○ＫＱⅡ	1		1	1				1	1	
	○ＫＱⅢ	1				1	1		1	1	
各学科に共通する各教科・科目の計			31	31	31	31	31		93	93	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0	0		0	0	
学校設定教科に関する科目の計			0	0	0	0	0		0	0	
総合的な探究の時間（生き抜く力）		3～6	1	1	1	1	1		3	3	
合計			32	32	32	32	32		96	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1		3	3	

教育課程に係るその他の事項

卒業までに修得させる単位数	96 単位	卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分	1 3学期制 ○ 2 2学期制	学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1単位時間の弾力化	○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 ［1日の授業時間を（　　）分×（　　）時間で実施］ 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 ［1週のうち（　）日間を、1日当たり（　　）分×（　）時間で実施］と、［1週のうち（　）日間を、1日当たり（　　）分×（　）時間で実施］を組み合わせて実施する。 4 その他 （　　）		
学校外における学修の単位認定	1 実施している　（①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧） ○ 2 実施していない		
総合的な探究の時間の実施方法	1 週時程に位置付けて実施する。 ○ 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。		
備考	1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年文型の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年文型の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年理型の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。		

注　　用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

科　目　名	必修／選択	単位数	学　年	学科・類型
ＫＱＩ	必修	2	1	普通科

科目の概要	探究活動の充実を目指し、基礎的な探究に係る知識・技術及び手法を習得するための科目。身近な現象を総合的に考察する力や、身の回りの探究課題を発見する力、探究活動を行っていく上での基本的な技術である機器の使用方法、結果の処理、考察の仕方、探究課題を設定する力などを段階的に身に付けていくことを目標とします。通常の教科学習の成果を教科横断的な視点に立ち実践できる活動や、外部講師による出前講義、フィールドワークの実施等により、新たな知識の習得や探究活動の深化を目指します。グループワークや発表会を通じて自分の考えを表現したり、議論したりする力を身に付けます。
教材名　教科書	それぞれプリント教材等を使用
教材名　副教材	それぞれプリント教材等を使用
学習到達目標	①探究活動の実施に向け、関心をもって新たな課題を発見することができ、わからないところを調べたりするなど、積極的に知識を吸収する態度を身に付ける。 ②幅広い領域の知識を体系化し、理論的、多角的な思考によって新たな価値を創造することができる。 ③教科を横断した多面的な見方・考え方から探究活動を行い、課題を発見し解決する基本的能力を体得することができる。 ④探究活動に係る基本的な知識・技能を身に付け、探究活動の流れを理解することができる。
学習方法	・様々な教科の内容のつながりを意識して学習に取り組んでください。 ・いろいろな疑問をもち、自主的・自発的に学習するように心がけましょう。 ・出前講座やフィールドワーク等、外部の方との活動ではいろいろな関心をもち、積極的に考えを発表できるよう心がけましょう。 ・探究活動の流れを身に付けましょう。

評価の方法及び評価基準と評価規準ルーブリック

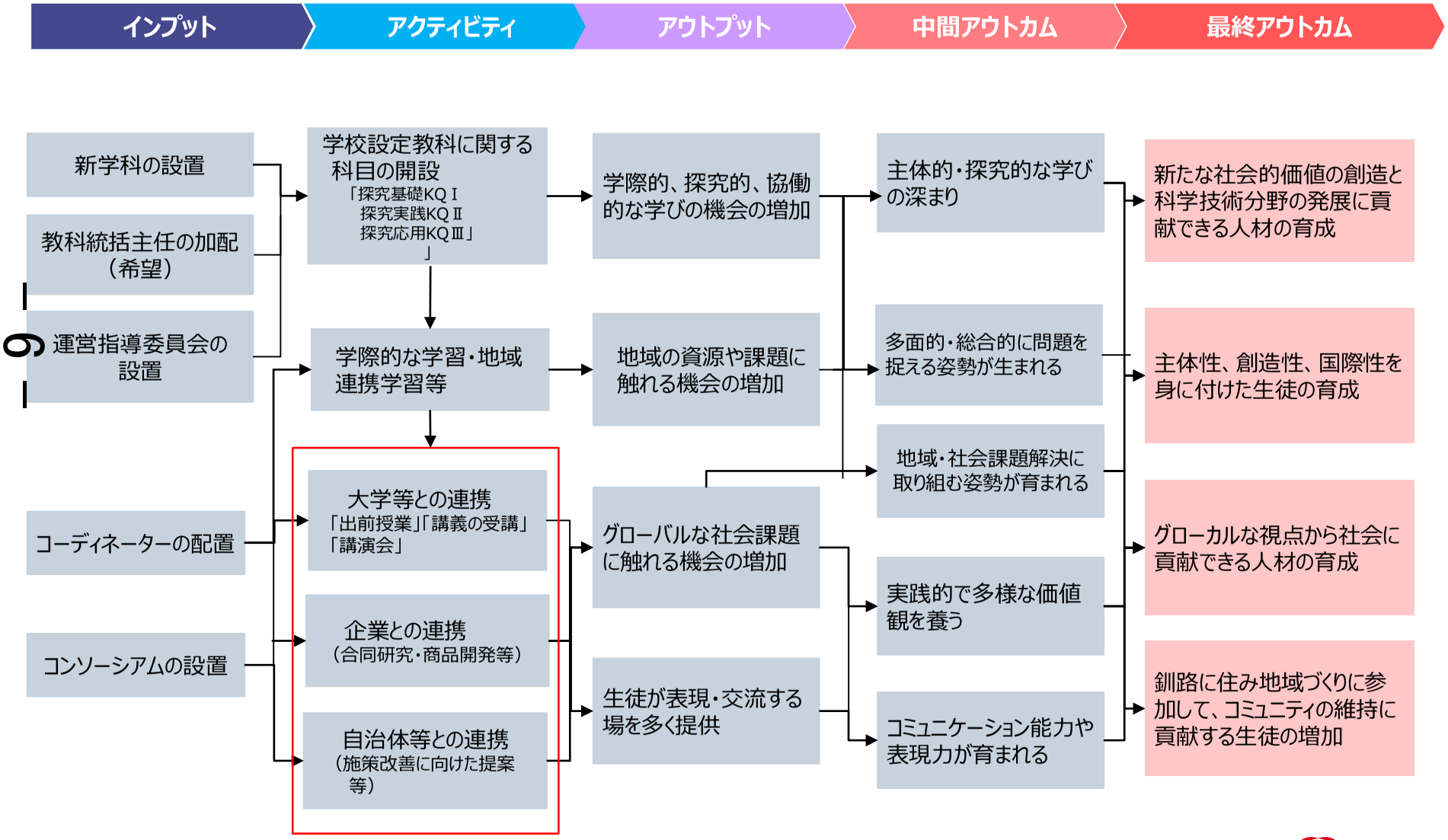
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・レポート内容	・発表内容 ・レポート内容	・授業態度 ・レポート提出状況
S	探究活動の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技術を十分に身に付け、探究の意義や価値を高度に理解している。また、探究活動に必要な技術を高度に習得し、得られたデータを適切に処理することができる。	適切な仮説を立て、検証計画を立案できる。解決に向けて情報の収集や整理・分析をし、結果を考察して、わかりやすく説明することができる。	身の回りの課題に強い関心を持ち、メンバーと協働しながら、自ら進んで学びを深めることができる。
A	探究活動の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技術を十分に身に付け、探究の意義や価値を理解している。また、探究活動に必要な技術を習得し、得られたデータを適切に処理することができる。	仮説を立て、検証計画を立案できる。解決に向けて情報の収集や整理・分析をし、結果を考察して説明することができる。	身の回りの現状や課題に強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。
B	探究活動の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技術を身に付けており、探究の意義や価値を理解している。また、探究活動に必要な技術を習得し、得られたデータを処理することができる。	仮説を立てることができる。情報の収集や整理をし、結果を考察できる。	継続して探究活動を行うことができる。
C	必要な知識が欠落し、探究の意義や価値を理解していない。また、探究活動に必要な技術を習得できず、得られたデータを処理できない。	仮説を立てることができない。情報収集や整理・分析、結果の考察ができない。	自ら進んで活動することができず、課題等の取り組みも甘い。

科目名［　ＫＱＩ　］

年　間　学　習　計　画

月	章　・　単元	学習内容・目標等	時数	備考（テスト・講習等）
4	「オリエンテーション」	ガイダンス、キックオフアンケートなど	1	
	「基礎理論Ⅰ」 ・探究手法の知識と技術	探究活動に係る基礎的・一般的な取組方法や留意点を学び、知識・技能を身に付けることを目的とする。		・レポート提出
5 上		①基礎的探究活動の実践理論 ②OECD 学力達成度調査への取組と評価	1 3	
	「学際領域学習Ⅰ」 ・学際領域基礎	学際領域の定義及び意義を理解する。	1	・レポート提出
	「探究理論Ⅰ」 ・ICT を用いたﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	探究内容を適切に表現する知識・技能を身に付ける。		
6		・個人端末を使用したﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄの活用	4	・発表
	・ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ講義（入門・実践）	・外部講師による出前講義	2	・レポート提出
	「ｸﾘﾃｨｶﾙ･ｼﾝｷﾝｸﾞⅠ」 ・思考・表現力演習	文脈を理解し、物事を総合的に考える力や自分の考えを適切に表現する力を身に付ける。		
7		①新聞記事の書き方（外部講師）	①2	・新聞記事提出
		②ﾃﾚﾋﾞﾆｭｰｽ原稿の書き方（外部講師）	②2	・ニュース原稿提出
8		③作文（論文）コンテスト結果の分析及び各種コンクールへの応募	③5	・コンクール応募
9	「探究理論Ⅱ」 ・ポスター制作	理科の実験結果をポスターにまとめることで、データ処理の仕方や探究内容を適切に表現する知識・技能を習得する。	2	・ポスター提出
	「探究理論Ⅱ」 ・文化人類学入門	・外部講師（国立民族学博物館）による文化人類学入門講座	2	・レポート提出
10	「地域学Ⅰ」 ・湖陵高校『探究の日①』	市内各機関の専門家から話を聞くことで普段学ぶことのできない領域を学ぶ。 ・外部講師による出前講義	6	・レポート提出 ・発表会
	「フィールドワーク」 ・事業所訪問事前学習 ・事業所訪問 ・事業所訪問事後学習	新たな知識の習得や探究活動の進化を目指し、実際に現地での活動を通して学習内容の理解を深め、課題解決の手がかりとする。	8	・レポート提出 ・発表会
11	「基礎理論Ⅱ」 ・探究手法の知識と技術	２年生の探究活動を見学することで、探究活動の実際を学ぶ。	2	・レポート提出
	「ｸﾘﾃｨｶﾙ･ｼﾝｷﾝｸﾞⅡ」 ・オンラインによる海外の高校生との交流	海外の高校生との交流を通じて、互いの生活文化を学ぶとともに、英語による表現力の向上を目指す。	2	・レポート提出
12	「地域学Ⅱ」 ・地域課題と高校生の役割	行政担当者から話を聞くことで、釧路市の抱える課題を把握し、高校生として実現できる解決の方策を考える。 ・釧路市職員による出前講座	6	・レポート提出 ・発表会
	「学際領域学習Ⅱ」	・日本語の表現と数学の表現	2	・レポート提出
1	・学際領域学習実践	・英文によるデータの読み取り ・家庭基礎と他教科の融合授業	4 4	
2	「探究理論Ⅳ」 ・データの読み取り実習	実践的数学問題を活用した実習	4	・レポート提出
3	「地域学Ⅱ」 ・湖陵高校『探究の日②』	釧路市立博物館学芸員による出前講義「探究活動のすすめ」	6	・レポート提出
	「評価とまとめ」	振り返り、事後アンケートなど	1	

北海道釧路湖陵高等学校：ロジックモデル



コンソーシアム「チーム湖陵」

サポーター

学校やプロモーターの要請に対して、必要に応じて、ワンポイントで学校の教育活動の支援する組織

大学等　自治体等　企業等　研究機関等

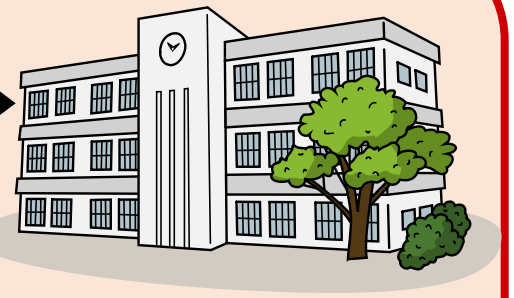
■道内大学　■道内研究機関　■道内企業等
■道外大学　■道外研究機関　■道外企業等

連絡・調整

連絡・調整等の補助

＜湖陵高校＞

探究的な学習の授業・行事等への支援



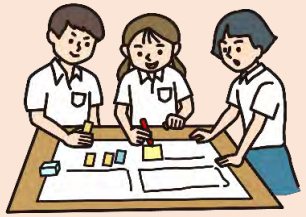
コーディネーター

- 関係機関との連絡・調整
- 探究的な学習等の企画・運営
- 会議等の企画・運営
- 生徒募集等の広報活動

企画運営

連絡調整

連絡・調整



生徒の多様な興味・関心に対応できる探究的な学習の持続的運営が可能

探究的な学習の授業・行事等への支援
探究的な学習の企画等への支援

プロモーター

コンソーシアム会議等に参加し、学校の教育活動に対して助言する組織

大学等　自治体等　企業等　研究機関等

大学等	自治体等	企業等	研究機関等
■北海道大学 ■北海道教育大学釧路校 ■釧路公立大学 ■釧路工業高等専門学校 ■釧路短期大学	■釧路市 ■北海道 ■北海道教育庁	■釧路商工会議所　■釧路地方気象台 ■釧路コールマイン　■NHK釧路放送局 ■釧路製作所　■大地みらい信用金庫 ■日本銀行釧路支店　■釧路新聞社 ■釧路開発建設部　■大塚食品工業	■釧路市立博物館 ■釧路工業研究センター ■道立釧路芸術館 ■JICA釧路デスク

北海道釧路湖陵高等学校
「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」に係る
コンソーシアム「チーム湖陵」設置要綱

（目的）

第１条

現代的な諸課題のうち、SDGs の実現や Society5.0 の到来に伴う諸課題に対応するため、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点をおく本事業の目標達成のため、様々な教育資源を活用する学習機会の充実を図り、生徒の主体的に学ぶ意欲や興味・関心、さらには進路希望の実現に向けた学習ニーズに対応し、豊かな教養や専門的な知識や技能等を育成する教育課程の充実に加え、生徒の探究活動の発展、深化を目指し、本校と大学、研究機関、事業所等の地域社会との持続的で効果的な連携・協働体制を維持するコンソーシアムを構築する。

（名称）

第２条　本コンソーシアムの名称を「チーム湖陵」とする。

（事業）

第３条　本コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 本事業推進に係る情報交換、意見交換

(2) 本事業実施上の連携方策についての協議、検討

(3) 探究的な学習の授業・行事等への支援

(4) その他、コンソーシアムの目的達成に資する事業

（組織）

第４条　本コンソーシアムは次の構成員で組織する。

(1) 本校教職員

校長、副校長、教育コーディネーター並びに本事業に関わる教職員

(2) プロモーター

釧路管内に存する自治体、大学、事業所、関連団体等

(3) サポーター

釧路管外に存する大学、研究機関、事業所等

ただし、サポーターは生徒の探究領域等に柔軟に対応するために、必要に応じて、拡充を図るものとする。

第４条の２　各メンバーの登録任期は令和５年４月１日から令和７年３月 31 日までとする。

第４条の３　各メンバーはコンソーシアム登録承諾書の提出をもって本コンソーシアムに登録される。

２　登録を取り消そうとする場合は、学校長宛に書面をもってその旨を届け出る。

（会議）

第５条　本コンソーシアムは次のとおり会議を開催するものとする。

(1) 目　的　本校教育活動の現状及び課題の共有を図り、更なる充実・発展に向けた指導・助言の場として開催することを目的とする。また、毎年度毎に教育活動の評価を行うこととする。

(2) 出席者　　本校教職員及びプロモーターとするが、必要に応じてサポーターの出席を要請する。

(3) 開催時期　５月、２月の年２回開催を原則とする。

（事務局）

第６条　本コンソーシアム事務局を北海道釧路湖陵高等学校に置く。事務局は次により校正する。

(1) 事務局長（釧路湖陵高校副校長）

(2) 事務局次長（釧路湖陵高校教務主任）

(3) 釧路湖陵高校教育コーディネーター

(4) 会計（釧路湖陵高校事務長）

２　事務局は、コンソーシアムの目的達成のため、次の業務を行う。

(1) コンソーシアムの庶務に関すること。

(2) コンソーシアム会議に関すること。

(3) 生徒の探究的な学習に関すること。

（会計）

第６条の２　本コンソーシアムの運営に係る経費は「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」予算からから支出する。会計業務は事務局が行う。

（その他）

第７条　本要綱の改訂は第４条の会議で行う。

（補足）

３　各構成員の業務

(1) 本校教職員

ア　コンソーシアムの構築、運営及び会議の開催等係る業務

イ　生徒の探究的な学習の企画及び運営に係る業務

ウ　生徒の探究活動に係る登録メンバーと生徒のマッチングに係る業務

(2) プロモーター

ア　コンソーシアム会議等に参加し、学校の教育活動に対し助言する業務

イ　探究活動成果発表会に出席し、生徒の活動へ助言を行う業務

ウ　その他、サポーターの活動内容に準じる業務

(3) サポーター

ア　探究的な学習に係る出前講義等の学習支援
（生徒の進路活動を支援する学校行事等への参加を含む）

イ　施設見学等の生徒の体験的学習を支援する業務

ウ　「総合的な探究の時間」に係る生徒の活動への一時的（または継続的）な指導及び助言する業務（オンラインでの実施を含む）

エ　メンバーが支援可能な学習活動に係る情報提供に係る業務

オ　必要に応じ、探究活動成果発表会での生徒の活動へ指導・助言を行う業務。

（注）　各メンバーの業務については、メンバーの特性に応じて事務局から依頼するものであり、全ての業務を依頼するものではない。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」
令和４年度　北海道釧路湖陵高等学校　第１回コンソーシアム会議
開催要項

１　目的
「普通科改革支援事業」の趣旨を踏まえ、コンソーシアム登録メンバーの共通理解を図るとともに、探究的な学習等に係る本校教育活動の改善・充実に向け研究協議を行う。

２　主催
北海道釧路湖陵高等学校

３　主管
「チーム湖陵」事務局

４　日時
令和５年３月22日（水）13:15～16:30

５　会場
北海道釧路湖陵高等学校　大会議室
〒085-0814　釧路市緑ヶ岡３丁目1-31　☎0154-43-3131

６　参加対象
「チーム湖陵」プロモーター（登録予定者を含む）及び釧路湖陵高校教職員　等

７　日程

13:00　13:15　13:30　14:45　15:15　15:35　16:00　16:30

受付	開会	講　　演	生徒 研究発表	説明	報告	研究協議 ・閉会

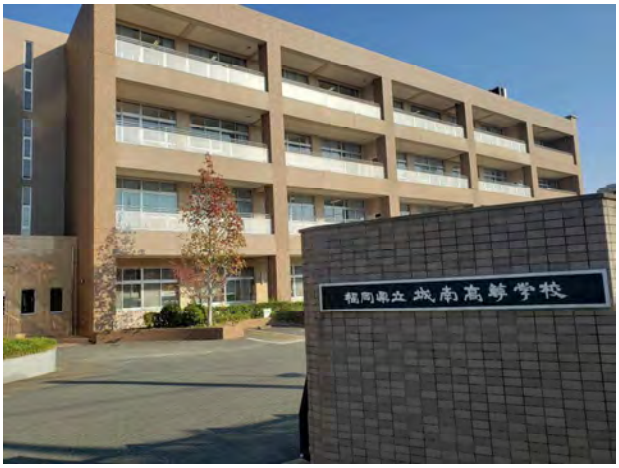
８　内容
○　開会式
(1) 講演
ア　時　間：13:30～10:45
イ　演　題：(仮)「探究活動の充実と生徒の学力における相関関係について」
ウ　講　師：北海道教育大学教職大学院教育学研究科特任教授　赤　間　幸　人　様
(2) 生徒研究発表
ア　時　間：14:45～15:05
イ　内　容：本年度の生徒探究活動の成果発表
ウ　発表者：北海道釧路湖陵高等学校代表生徒
(3) 説明
ア　時　間：15:15～15:35
イ　内　容：「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業)」概要について
ウ　説明者：北海道教育庁学校教育局高校教育課　前　野　文　繁　主査
(4) 報告
ア　時　間：15:35～16:00
イ　内　容：道外先進校等の取組状況等について
ウ　報告者：北海道釧路湖陵高等学校長　塙　浩　伸
〃　副校長　古　野　輝　昭
〃　教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　木　元　秀　子
(5) 研究協議
ア　時　間：16:00～16:20
イ　内　容：本校の探究的な学習に係る支援等について
ウ　進　行：北海道釧路湖陵高等学校副校長　古　野　輝　昭
○　閉会式

１　名　称　教育活動改善に向けた先進校等視察
２　期　日　令和４年(2022年)11月７日(月)～９日(水)
３　場　所　福岡県立城南高等学校、福岡県立八幡高等学校
　　北九州市環境ミュージアム
４　視察者　校長　塙　浩伸

【福岡県立城南高等学校】
日　時：令和４年(2022年)11月８日(火)9:15～11:30
対応者：矢ヶ崎校長、金教諭
内　容：スーパーサイエンスハイスクール及び探究的な学習活動の取組について

○　ＳＳＨ事業の概要について
○　ＳＳＨ事業における評価法について
○　ＳＳＨ事業の第三期申請に向けた留意点等について
○　組織的・系統的に取り組む各教科における協働活動について
○　その他、特色ある教育活動について

・今年度と来年度は、地域の中卒者の増加に伴い、１学級増の11クラス（普通コース10クラス、理数コース１クラス）となっている。



・「理数コース」はあくまでも普通科のコースであり、幅広い進学を目指すコース。理数科の教員加算はない。
・「理数コース」は、これまでも、高大連携に重点を置いて取り組んでおり、単位認定等を実施してきた。特に、水産大学校、長崎大、鹿児島大と取り組む「海洋生物観察実習」は、１年生の学校設定科目「理数ゼミ」において、基礎的な実習として行ってきた。
・「理数ＤＳ（データサイエンス）は、第２期申請の目玉であり、松山南高校の情報教育をモデルに取り組んでいる。
・「ＥＳＤ研究」は、文理融合型の課題研究であり、第２学年から「傘（分野）」に分かれて、クラスの枠を越えたグループで研究活動を実施している。
・申請に向けて留意すべき点は、「生徒主導の課題研究であり、生徒のやりたいことをさせること」、「問いの立て方に注意する。仮説とは、事実を踏まえたものであり、予備実験などのデータが根拠となること」、
・中間評価における課題「生徒の変容も大切だが、教員の変容も大切」とあったことから、アンケートなどを参考にして「デザイン会議」を設置し、第３期申請でＰＲした。
・「研究倫理」の教材開発に取り組み、他校でも利用できる汎用性の高いものを目指している。

【福岡県立八幡高等学校】
日　時：令和４年(2022年)11月８日(火)14:00～16:00
対応者：内村校長、板木教頭ほか
内　容：「普通科改革推進事業」の取組について

○　本事業の計画概要について
○　新学科設置に係る学校設定科目の検討状況について
○　本事業に係るコンソーシアムの構築について
○　本事業に係るコーディネーターの役割及び業務等について
○　探究的な学習活動の取組状況について
○　その他、特色ある教育活動について

・福岡県内は、小学区制のため、本校は人口が最も多い小倉地区に隣接しているにもかかわらず出願できない。
・そのため、新学科については「全県一区」とするよう県教委に要望している。
・令和元年度に100周年を迎えた。その際に、女子の制服をリニューアルしたところ大人気となっている。
・ＳＳＨについては、第２期を終えてから申請していない。
・平成29年度から、「教科横断的な取組」を始めた。令和３年度から、全ての教科で取り組んでおり、その取組を整理して、新たな学校設定科目とする予定である。
・例えば、体育と理科（物理）の教員が連携して、サッカーの指導に取り組み、最も有効なキックなどを研究するといった取組である。
・コンソーシアムは、既に２回の会合を実施しているものの、北九州市内の関係機関等を中心に、これまでの関係者を中心に組織している。但し、国際機関も１機関のみ、大学についても市内の大学のみであり、国際的な広がりはみられない。
・コーディネーターは、当初退職教員を雇用する予定であったが、適材が見つからず、民間企業経験のある女性が雇用した。これまで、教員が担当していた渉外業務を一手に担っており、働き方改革につながっている。
・学科名については、「知の統合学科」として検討を進めている。一部からは「総合学科？」と混同されており、「知の統合科」とすることも検討している。
・既に、中学生及び中学校の教員向けのパンフレットをそれぞれ作成しており、中学生とその保護者の理解は深まっている。
・理数科については、基本的に変更なし。
・「教科・科目横断授業」＋「夢現∞プロジェクト（総合的な探究の時間）」を組み合わせて、「知の統合学科」のカリキュラムを編成する。
・「夢現∞プロジェクト（総合的な探究の時間）」については、ＳＤＧｓの達成を目標に、「主体的な行動力と旺盛な学びに向かう力の育成」に向けて取り組んでいる。この取組で協力を得ていた関係機関を中心にコンソーシアムほ構築している。

【北九州市環境ミュージアム】
日　時：令和４年(2022年)11月９日(火)9:30～11:00
対応者：松岡館長ほか
内　容：「普通科改革推進事業」の取組について

○　本施設の概要について
○　八幡高校と連携した教育活動について
○　学校と連携した探究的な学習活動の取組状況について
○　その他、特色ある活動について

・北九州市は、高度経済成長期に公害に苦しんだ経験から、「環境ミュージアム」が建設された。
・北九州市は、「環境未来都市」に選定されており、地球温暖化や資源・エネルギー問題のほか、人口減少や高齢化などの社会問題にも取り組んでいる。
・八幡高校との連携した教育活動はこれから取り組む。これまで、市内の小・中学校と連携してきたが、これから高校との連携に取り組む。
・市内の小学校５年生は、これまで全員が校外学習に訪れていたが、近年は選択制をとっている。
・東京の小学校とは、オンラインで「総合的な学習の時間」に取り組んでいる。
・専門の職員はいないが、北海道の高校とも、縁があれば、オンラインや見学旅行の際に訪問いただくなど、可能限りの連携を進めたい。
・学校と地域の連携は、「土の人」（地域の人）、「風の人」（外部からきたコンサルタント）、「火の人」（土の人と風の人を結びつける人）の３者で構成されており、「土の人」を「火の人」に育てることが大切である。

１	名　称	普通科改革支援事業に向けた先進校等視察
２	期　日	令和４年11月15日（火）～18日（金）
３	場　所	三重県立上野高等学校　国立民族学博物館　兵庫県立御影高等学校 立命館大学
４	視察者	副校長　古野輝昭　　コーディネーター　木元秀子

【三重県立上野高等学校】

日　時：令和４年11月16日（水）10:30～12:00

対応者：吉田淳校長　留永裕也教頭　中山隆之コーディネーター

内　容：学際領域学科設置の取組について

○　本事業に係わる取組・進捗状況について
○　探究的な活動の充実に係わる特色ある学校設定科目等について
○　教育コーディネーターの役割及び業務について
○　本事業に係わるコンソーシアムの構築について
○　スーパーサイエンスハイスクール事業との連携・棲み分けについて
○　本事業に関わる校内体制について

・現在普通科６クラス理数科１クラスであるが、来年度から普通科が１減の５クラスとなる。新学科については、普通科５クラスをどのように編成するか現在検討中とのこと。

・新しい時代に対応したカリキュラムと教育方法の開発の３本柱について

①海外をフィールドとした学び　→　ＳＤＧｓを踏まえた海外交流で、株式会社With The Worldの協力を得てフィリピン・トルコとオンラインで交流している。（予算は普通科改革事業から）１・２年希望生徒受講

②忍者STEAM　→　地域と連携したプログラム。現代に忍者がいたらの視点で、「歴史」以外の観点で考察する。株式会社steAmの協力により活動している。（予算は普通科改革事業から）希望生徒受講

③Feel度Shot　→　１年生普通科を対象に、探究を進める感性、好奇心を呼び起こす。12月から５回予定

・理数科があるが、文系の「特進」を作りたい、また国際交流を是非取り入れたいとの思いがある。

・以前は上野市であったが、伊賀市と合併した。また近鉄伊賀線から分離し、第３セクターの伊賀鉄道に転換している。生徒の通学費用が上昇した。

・三重県は専門学科率が高い。県内の学区は「北勢」「中勢」「南勢」で隣接する学区へは出願可能。

・学校設定科目は理数科「みらい探究Ｒ」、普通科は「みらい探究Ｆ」として、「上高みらい探究プログラム」を開発している。

・コーディネーターは２名、１名は上野高校元職員で近隣の高校を退職後県教委の高校教育課所属、３本柱の講座の生徒への案内や、講座の様子を配信している。もう１名はジャズピアニストで数学研究者の方が、STEAM講座を担当している。

・ＳＳＨ事業との100％の棲み分けは、難しい。

・運営指導委員会は10月に１回目を開催した。

・コンソーシアムのメンバーは決定しているので、今後会議の開催を予定している。

・校内組織は、新学科検討委員会、教育課程検討部会、探究活動検討部会、制服検討部会

・開校以来制服が変更されていない、中学生には不人気とのこと。ＬＧＢＴへの配慮等から選べる制服にとの考えもあるが、同窓生は変更に対して抵抗感がある様子。新学科設置が良い機会か。

【兵庫県立御影高等学校】
日　時：令和４年11月17日（木）9:30～11:30
対応者：森本成己校長　橋口徹教頭　橋本淳史特殊教育推進部長　東善仁コーディネーター
内　容：学際領域学科設置の取組について

○　本事業に係わる取組・進捗状況について
○　探究的な活動の充実に係わる特色ある学校設定科目等について
○　教育コーディネーターの役割及び業務について
○　本事業に係わるコンソーシアムの構築について
○　スーパーサイエンスハイスクール事業との連携・棲み分けについて
○　本事業に関わる校内体制について

・現在普通科７クラス、普通科総合人文コース１クラス。普通科総合人文コースを令和６年度に学際領域学科（仮称：文理探究学科）に改編する。
・令和５年度から、制服が新しくなる。女子はスカート・スラックス、リボン・ネクタイを選択することができる。
・新学科のカリキュラム開発は、３つの会議によって検討している。
「運営指導委員会」→８月10月に実施。第３回は２月実施予定。
「カリキュラム開発会議」→８月９月（２回）11月に実施　第５回は12月実施予定。
「MIKAGEコンソーシアム会議」→今後、会議開催予定。
※コンソーシアムの構築・運営について担当者より質問あり。
・学校設定科目「文理探究基礎」「文理探究実践」「文理探究発展」「クリティカルシンキングＡ・Ｂ」「探究英語Ａ・Ｂ」
・「クリエイション講座」現在実施中
→・新学科では「クリエイションⅠ」「クリエイションⅡ」
・長期休業やテスト後の時間を充て、外部講師による講演・会社見学などを実施。（希望生徒）
・STEAM教育（学際的学び）、学校では学べないことを地域の企業から学ぶ、実社会の課題の解決等。
・地元企業は協力的である。終了後の振り返りの時間をしっかり取ることが必要。生徒の反応等企業からの問い合わせあり。理数系の生徒の対応できる企業が少なく、高校生に理系の面白さを伝えるというのが、難しい。
・講座内容は、担当教員とコーディネーターで立案している。
・コーディネーターは２名。
→・１名は元県立高校校長。コンソーシアム等との調整担当。
・１名は民間企業の方で、人脈を生かし地域企業・ＮＰＯ等とのコーディネーションを担当している。
・コーディネーターは教員が普段出会わない人や企業をつなぐ役目をしている。
・生徒の探究成果発表会について
・今までは学年を超えた発表会は実施しなかったが、今年度は１・２年生の全生徒が参加する発表会を実施した「御影セッション」（神戸サンボーホールにて）
・１年生全員と、発表を担当者しない２年生がポスター発表やパワーポイントを用いた発表を聞く。
・７月と３月に岡山学芸館高等学校と交流発表会を実施する。生徒が主体となって計画・進行を行う交流会である。
・その他、大学等での探究発表を実施している。

１	名　称	普通科改革推進事業に向けた先進校等視察
２	期　日	令和５年１月19日（木）13:00～15:30
３	場　所	和歌山県立橋本高等学校
４	視察者	教務部　加藤知有　宮城雄大　コーディネーター　木元秀子
５	対応者	井筒正文校長　岩見秀樹教頭　藤井佳世教務部長　平松光子ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

○　本事業に係わる取組・進捗状況について
○　探究的な活動の充実に係わる特色ある学校設定科目等について
○　教育コーディネーターの役割及び業務について
○　本事業に係わるコンソーシアムの構築について
○　生徒の探究活動の成果発表会等の参観

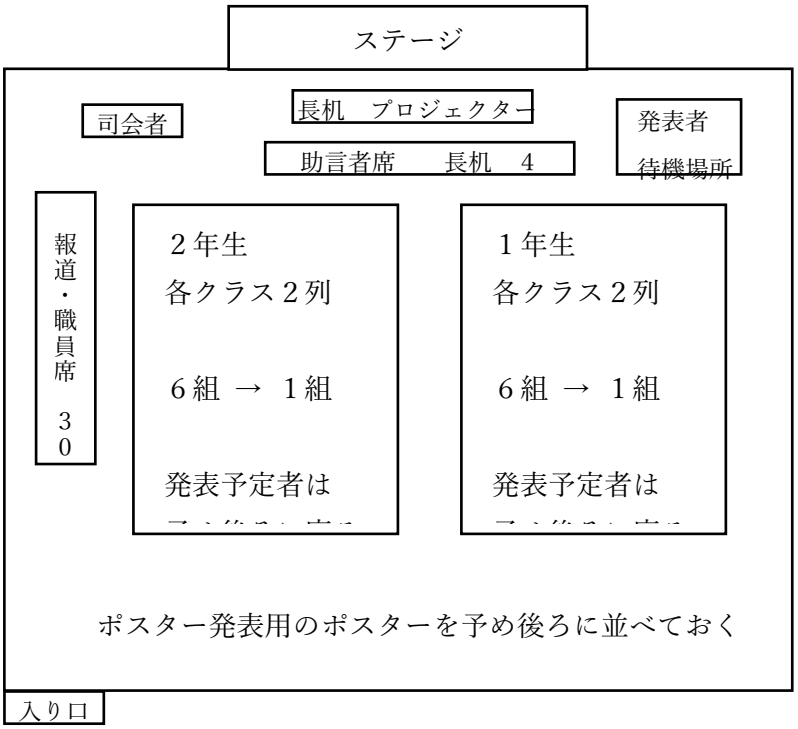
・現在普通科５クラス、併設型中高一環教育校（中学校１学年４０名）
・10月から本事業を開始した。学際領域学科にすべて転換したいが、クラス数はまだ決定できていない。併設している中学生は入試を経て入学し、そのまま高校へ進学するので現在の中学生への説明や、中学校を受験する小学生への説明など、クリアしなければならない課題が多い。従って、６年度からの学際領域学科の立ち上げに関しても、状況的に厳しい。
・探究的な活動について
　１年生は橋本市役所とタイアップして課題を設定し、成果については代表が市長にプレゼンテーションを実施する。２年生はＳＤＧｓに関するテーマの探究活動で、代表はＳＤＧｓ探究アワード2022に応募する。３年生は１学期に探究成果をホームページなどで海外に発信している。
・新学科では学校設定科目「世紀の空」を開設し、総合的な探究の時間と連動して、探究活動を実施する予定である。現行教育課程は、７時間授業を３回実施の３３単位となっている。今後、６年度入学生の教育課程を決定する。
・コーディネーターは現在１名。高校教諭・県教委勤務・高等学校長を経て、コーディネーターとし10月から勤務。海外との交流に関して、海外の大学等との連携をとれる方であること。週２回（木・金曜日に各5時間）勤務で、探究活動の支援を実施している。さらに、今後海外との交流を充実させるため、語学学習を担当する英語の先生が週１回勤務する予定である。
　3/22にオーストラリアと、3/31に台湾の学校との交流が予定されている。
　計画の中に他県の高校との交流があり、本校との交流を希望している。3/7実施の方向で、担当者間で調整を行っている。（次年度以降も継続を希望している）
・探究活動の実施は、各学年の副担任が担当している。全学年１単位、金曜日に時間を設定しているので、木曜日に打ち合わせを行う。（コーディネーターの勤務もこの日程に合わせている）
　現在は、教務部長・部員等で６名の体制で、総合的な探究の時間の計画や本事業に関わる業務を推進している。５年度は新分掌を立ち上げ、部長以下５名体制で業務を遂行する。
・生徒の探究成果発表会について
　１・２年生の各クラスにおける発表を参観させていただいた。各クラス教室にプロジェクター、スクリーンが設置されている。外部講師によるプレゼンテーション講座を実施しており、わかりやすく・見やすいスライド作りがされていた。
・コンソーシアムは、今まで連携のある自治体や企業、大学などで構築する。成果発表にＪＩＣＡとユネスコの職員が来校し、講評をするとのこと。本校で提出いただいている承諾書などはなし。本校の状況を説明した。
・本事業指定終了後の７年度以降にどう運用していくかが課題とのこと。

令和５年度ＳＳＨ成果発表会・総合的な探究の時間成果発表会要領

１　時　程

8:45	開会式
8:55～10:30	生徒発表Ⅰ（全体発表）
10:30～10:45	休憩・いすを教室へ移動　会場準備
10:45～11:35	生徒発表Ⅱ　前半　５分発表・５分質疑応答・２分移動　計１２分×４セット　行う
11:40～12:30	生徒発表Ⅱ　後半　５分発表・５分質疑応答・２分移動　計１２分×４セット　行う
12:30～12:40	閉会式（　整列して起立したまま聞く　）
12:40~	SHR（各教室）

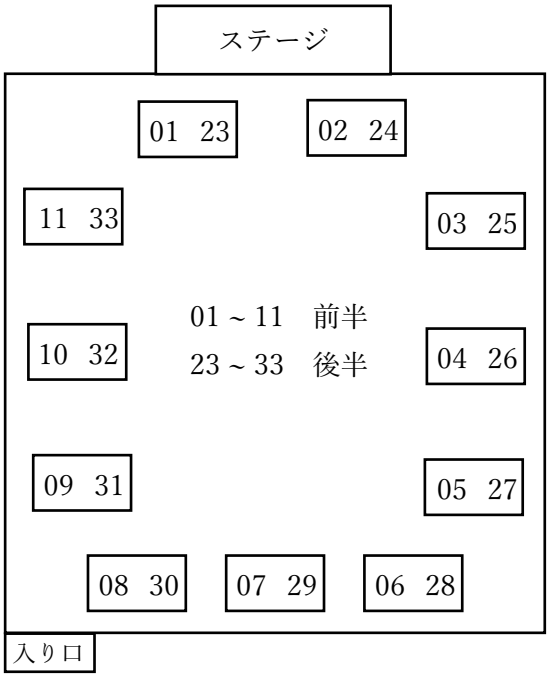
２　生徒発表会Ⅰ（8:55~10:30）　　第１体育館 会場図



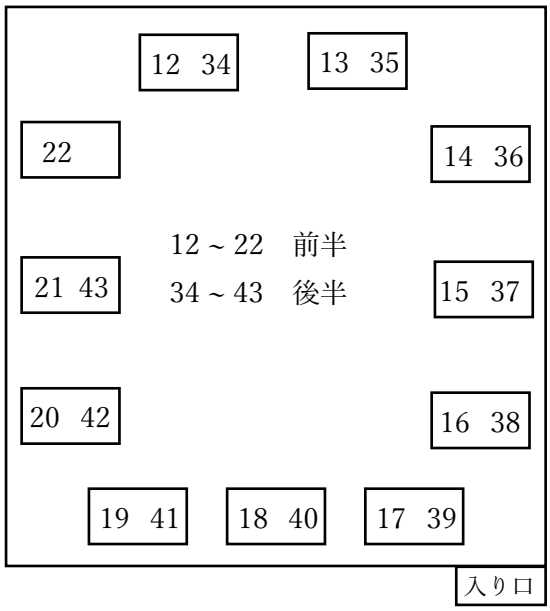
	発表テーマ	科
1	Ｅプラン研修報告	理
2	心身の安全を守る避難所生活	普
3	津波の被害を減らす防波堤の考察	普
4	ウチダザリガニの利用方法	普
5	西別川水系におけるカワマスと在来イワナの交雑について	普
6	日本製紙釧路工場跡地の活用：長所を活かした跡地利用の検討	普
7	Kushiro Wetland Excursion Report	理

３　生徒発表会Ⅱ（10:45~12:30）

第１体育館 会場図



第２体育館 会場図



4　ポスター発表一覧

番号	学科	発表名	番号	学科	発表名
01	普通	ありの生態	23	普通	恋愛においての束縛について
02	普通	視覚情報と心理のつながり	24	普通	釧路の活性化には何が必要か
03	普通	Wisdom tooth ～tracing the roots～	25	普通	体温調節して微熱を出そう！
04	理数	蜂蜜の殺菌効果について	26	理数	ディープラーニングによる地表性昆虫の画像識別
05	理数	ミルククラウンの発生に関わるパラメータ変化の結果	27	理数	絶対音感と色聴共感覚の関係性
06	理数	より良いカゼインプラスチックの研究	28	普通	第三言語習得大作戦！
07	普通	大失敗の歴史	29	普通	やる気について
08	普通	「ゲームの常識を現実へ」・「現実の常識をゲームへ」	30	理数	ヒシの繁茂が及ぼす水質への影響の調査
09	普通	届け！このAJI★	31	普通	嫌なことを続けたらいつ慣れるのか
10	理数	海藻を用いたヘアケア	32	理数	ワサビと薬剤耐性について
11	普通	身近な有毒植物の他の植物に対する毒性の検証	33	普通	ヨーロッパの画家は浮世絵に何を求めたか
12	理数	柑橘類の種類による洗浄力の違い	34	理数	二項係数付き多重ゼータ値
13	普通	周りの環境が及ぼす睡眠の変化	35	理数	メレンゲと温度の関係
14	普通	人類の進化～あっち向いてホイ必勝法～	36	普通	百人一首～現代との繋がり～
15	普通	目指せ！最強のシャボン玉	37	普通	目指せ！理想の体型
16	普通	～第一印象で悩んでいる方へ～	38	普通	ファシズム・ナチズムと経済
17	理数	牛乳を使った接着剤の研究	39	理数	電磁誘導型振動発電と周波数・波形
18	普通	VISION AND ADVERTISEMENT	40	普通	見たい夢を見るためには
19	普通	心理状態が体に与える影響	41	普通	カラスの鳴き声について
20	普通	ミッドウェー海戦と太平洋戦争について	42	理数	マスク着用時間と皮膚常在嫌気性細菌の関係
21	理数	大人数に対応したジャンケンの開発	43	普通	時間と量　制限を設けた時に効率が上がるのはどっち
22	普通	関ヶ原の戦いで西軍が勝つには			

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.1　　令和４年10月３日発行　　発行　探究科設置準備委員会

令和６年度、本校普通科は「進学型の新しい普通科の学科」に移行します。この学科転換に向けて令和４年度から６年度まで本校は文部科学省から「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」の指定を受けています。新学科への転換に向けて教職員の共通理解を図り、全校体制で協働的に本事業に取り組む環境を醸成するため、これから定期的に「普通科新学科通信」（仮称）を発行し、情報提供していきます。

○そもそも普通科改革はなぜ必要？

そもそも高校には、「普通教育を主とする学科（普通科）」「専門教育を主とする学科（専門学科）」「総合学科」の三つがあります。専門学科には、商業、工業、福祉、看護、水産、情報などの多様な学科がある一方、全高校生の7割強が通う普通科には、「普通科」しかありませんでした。この普通科をより特色・魅力あるものにするために、学校設置者の判断により、普通教育を主とする学科の中に、「普通科」以外の学科の設置を可能にするというのが、今回の普通科改革の柱です。新学科の設置枠は次の三つになります。

・学際的な学びに重点的に取り組む学科
・地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科
・その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

○改革の背景には

文科省と厚生労働省が、行っている調査によると、「現在通っている学校を選択した理由」については、「自宅から近いから・通いやすいから」「学校の雰囲気がよかったから」「合格できそうだったから」が回答のトップ3になっており、「特色ある取り組みなど授業内容に興味があったから」を選択した生徒は少数でした。また、調査を継続的にみると、「ためになると思える授業がたくさんある」「学校の勉強は将来役に立つと思う」を選んだ生徒の割合は、学年を経るごとに下がっていきます。特色や魅力ではなく偏差値や通いやすさで高校を選択している生徒が多い、学校の授業に魅力や学びがいを感じていない生徒が多い――といった課題感から、学校のあり方の再考や普通科の特色・魅力化が検討されるようになりました。

○新学科の設置にはどのような条件があるのでしょうか？

必須条件は、各学科の特色に応じた学校設定教科・科目を設け、これらを2単位以上、総合的な探究の時間と合わせて6単位以上履修するカリキュラムにすること、そしてこれらを3年間にわたり履修させることです。また、「学際的な学びに重点的に取り組む学科」については大学などとの連携協力体制を整備することも条件にしています。

さらに、努力義務として、「関係機関などとの連絡調整を行う職員の配置その他の措置」を課しています。この職員というのは、いわゆる「コーディネーター」と呼ばれる存在のこと。（本校では木元コーディネーターになります）

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.２　令和４年10月４日発行　発行　探究科設置準備委員会

前回の通信では新学科の設置枠が３つあると書きましたが、本校の新学科はこのうち、「学際的な学びに重点的に取り組む学科」になります。では、実際に本校ではどのような学科を目指すことになるのでしょうか？本校が文部科学省に提出した実施計画書の中身を本号から、抜粋して掲載していきます。新たな取組もありますが、これまでに実践してきた取組もあることが分かります。

1　ねらい

現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定教科に関する科目「探究基礎」及び「探究ゼミ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結びつけた探究的な学習を重視した教育活動を展開し、普通科における教育課程の弾力化や教科等横断的な学習の推進の取組により、本校生徒の能力の伸長に資するとともに、これからの普通科に求められる教育のモデルとしての役割を果たす。

2　取組の内容

(1)ICTの活用を含め、国内外の大学や研究機関、国際機関等との同時双方向型の授業を取り入れたSociety5.0に対応するためのカリキュラムの一層の改善・充実

ア　選択した社会課題に対し、多様な学問領域からアプローチする探究活動の実施

イ　探究活動の充実に必要となる学校設定教科に関する科目の開設　例:「探究基礎」、「探究ゼミ」

ウ　大学等との連携による「出前授業」、「講義の受講」、「講演会」等の実施

エ　企業等と連携した合同研究や商品開発等の実施

オ　自治体等と連携した施策改善に向けた提案等の実施

(2)スーパーサイエンスハイスクール事業で蓄積した探究手法を応用するとともに、理数分野以外における探究手法の構築及び実践

ア　SDGsの実現に向け、年度を継続した学校全体の探究活動の取組

イ　現代の諸課題の解決に向けて多様な学問領域からアプローチする探究活動

ウ　1学年「探究基礎」、2学年「探究ゼミ」を履修するとともに、総合的な探究の時間を1単位増加することにより、SSHで培った探究のプロセスや科学的アプローチの方法の定着（※新学科が設置される令和6年度入学生から適用）

(3)外国語教育の充実及び英語によるディベート、プレゼンテーションの実施による実践的英語力の育成

ア　本事業指定校間の連携による情報交換や研究協議の実施及び生徒交流

イ　海外の高校生とのオンライン交流事業の実施

(4)目的の達成度を可視化できる評価方法の作成と、年度ごとのカリキュラム・マネジメントの適切な実施

ア　探究活動を踏まえた学習全体に対する生徒の自己評価の実施

イ　運営指導委員会による各種取組の評価及び改善に向けた指導助言

(5)探究活動成果の積極的な外部発信

ア　成果発表会を一般公開で開催

イ　学習成果を他の高校に発表する「探究サミット」の実施

3　期待される効果

(1)生徒がグローバルな視点から社会課題の解決に向けた学びを深め、その解決方策について探究することで、これからの社会に貢献しようとする意識を高めるとともに、主体的に考え行動する力を身に付けることができる。

(2)探究活動を通して、様々な立場の人々と協議し、フィールドワークをすることにより、多様な視点から考えを深めることができると考えられることから、グローバルで多様な視点をもって課題解決にあたるグローバルリーダー・イノベーターを育成することができる。

(3)本校の取組を全道・全国に普及することにより他の普通科高校の探究活動の改善・充実に資することができる。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.３　令和４年10月11日発行　発行　探究科設置準備委員会

前号から文部科学省に提出した実施計画書を掲載しています。今回から「事業の目的等」を２回に分けて掲載します。本号では学際領域学科を設置する本校を取り巻く状況の分析についてをご確認ください。

１　国の状況

・令和３年１月の中央教育審議会答申等において、新時代に対応した高等学校教育等の在り方について、高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸張するための各高等学校の特色化・魅力化や教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が提言された。

２　北海道の状況

・道教委が令和３年12月に実施した「高校教育に関するアンケート」における、「今後、北海道の普通科の高校はどのような学びがあればよいか」という設問に対し、中学生及びその保護者からSDGs、IoT、AIなど、現代的な諸課題に対する学びについて一定のニーズがあった。

・大学受験のための知識等に重点を置いたり、基礎・基本を学ぶことが出来たりする普通科を希望する中学生や保護者が70％程度いる一方、「生徒の個性を生かし豊かな教育活動を実践する高校の個性化・多様化の推進」に期待する声も65%程度存在している。

３　釧路湖陵高校を取り巻く状況

・釧路湖陵高校は大正元年、北海道庁立釧路中学校として開校の許可を受けて以来、幾多の先達諸氏の活躍により輝かしい伝統を築き上げ、道内屈指の名門校として現在に至っており、この間、「誠」「愛」「勇」を校訓に、約３万４千名の卒業生が国内外で活躍し、社会に貢献している。

・生徒の特徴としては高い就学意欲をはじめ、将来の社会に有意に貢献しようとする意識が高いことが挙げられる。

・地域経済の衰退や人口減少などによる社会背景の変化から、生徒の生育環境の変化や、将来の在り方生き方について、明確なビジョンを持てない生徒も見られる。

・特に普通科については、中学校卒業者の減少などから、近年入学定員を下回ることもあることから、入学者の学力幅が拡大しており、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう、教育課程の改善・充実を図る必要がある。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.４　令和４年10月17日発行　発行　探究科設置準備委員会

前号に引き続き、「事業の目的等」（後半）を掲載します。今回は、本校に学際領域学科を設置する必要性、取組の目的・目標に関する内容です。新学科設置の必要性や、新学科の教育を通じて育成を目指す生徒の資質・能力について、共有していただきたいと思います。

１　学際領域学科を設置する必要性

・釧路湖陵高校は、難関大学への進学希望者の進路実現、地域医療人材や科学技術系人材の育成、トップリーダー・イノベーターの育成を地域から期待されており、学際領域に関する学科を設置し、総合的な探究の時間の単位の増加、探究に関する学校設定科目の開設、発展的な内容を取り扱う学校設定科目の開設、コンソーシアムとの連携のもと多様な実践的・体験的学習など、従来の普通科と比較して、より高度な探究的な学びを実践することで、地域の期待にこたえることができる。

・コンソーシアムとの連携・協働により、大学等、国際的な活動を行う機関、地域の関係機関など様々な人材と交流することで、グローバルな視点とローカルな視点の両面から社会に貢献することができるトップリーダー・イノベーター人材を育成することができる。

・コンソーシアムの構築により得られる地域の諸課題へのアプローチのためには、従来の文系・理系を超えた学際的、横断的な組織が不可欠である。

・釧路湖陵高校における、これらの生きた学びの研究・実践は、北海道内外を牽引する人材の育成やそれに先立つ目的意識を持った進学に寄与するものであり、このような取組は、道内はもちろんのこと全国のモデルケースとなるものである。

・新たな学科の設置により、探究的な学びを深めることができ、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びが実現し、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成が期待される。

２　学際領域学科における取組の目的・目標

（１）現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる、複合的かつ分野横断的で、地域社会・国家・国際社会という枠組みも超えるようなボーダーレスな課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識及び技能の習得

（２）習得した知識及び技能の活用に関わる思考力、判断力、表現力等の育成

（３）自己の在り方生き方と国際社会及び日本社会のつながりを考えながら、社会の持続的な発展に関わり、豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力、人間性等の涵養

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

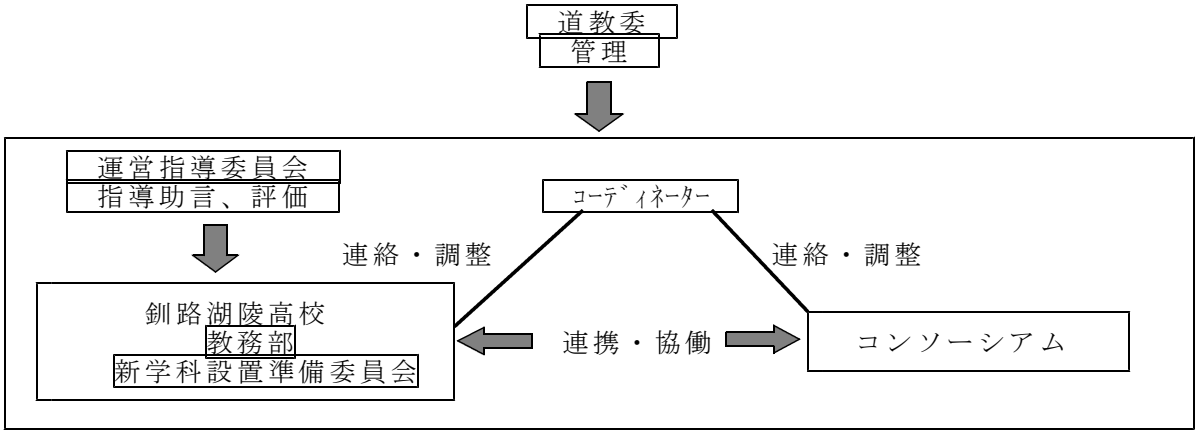
普通科新学科通信

No.５　　令和４年10月24日発行　　発行　探究科設置準備委員会

本号からは事業の実施体制について掲載します。実施体制に関しては、管理機関における実施体制や管理方法等、新学科を設置する高等学校の管理方法等となっています。今回は（１）管理機関における実施体制や事業の管理方法についてお知らせします。

１　実施体制

下図のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理していく。



２　事業の管理方法

道教委は、運営指導委員会及びコンソーシアム会議に参画することにより、事業の進捗状況等を把握するとともに、学校訪問やweb会議サービスを活用し、本事業が汎用性の高い研究となるよう指導・助言する。

（１）運営指導委員会

道教委及び外部機関などを構成員とした「運営指導委員会」を設置し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。運営指導委員会は、年２回開催し、進捗状況を確認する。

（２）コンソーシアム会議

・コンソーシアムの全構成員参加による会議を年２回開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。

・コンソーシアム構成員が該当する研究領域に係る生徒の研究活動の状況を踏まえ、新学科設置準備委員会の担当者と適宜情報交換等を行い、その内容を生徒の研究活動に還元する。

（３）生徒の研究成果発表会

道教委、コンソーシアム構成員及び地域住民などに公開する生徒の研究成果発表会を年１回行い、生徒の学びの成果について指導助言、評価を行う。

（４）教育局による学校訪問

教育局の指導主事が年２回訪問し、事業の取組状況の把握や効果的な取組について指導助言を行う。

（５）コーディネーターの役割

生徒の研究活動の状況等を把握し、適宜コンソーシアムに情報提供・相談するとともに生徒の研究活動が効果的なものとなるよう、新学科設置準備委員会とコンソーシアムの構成員の個別の情報交換等の場を設定する。

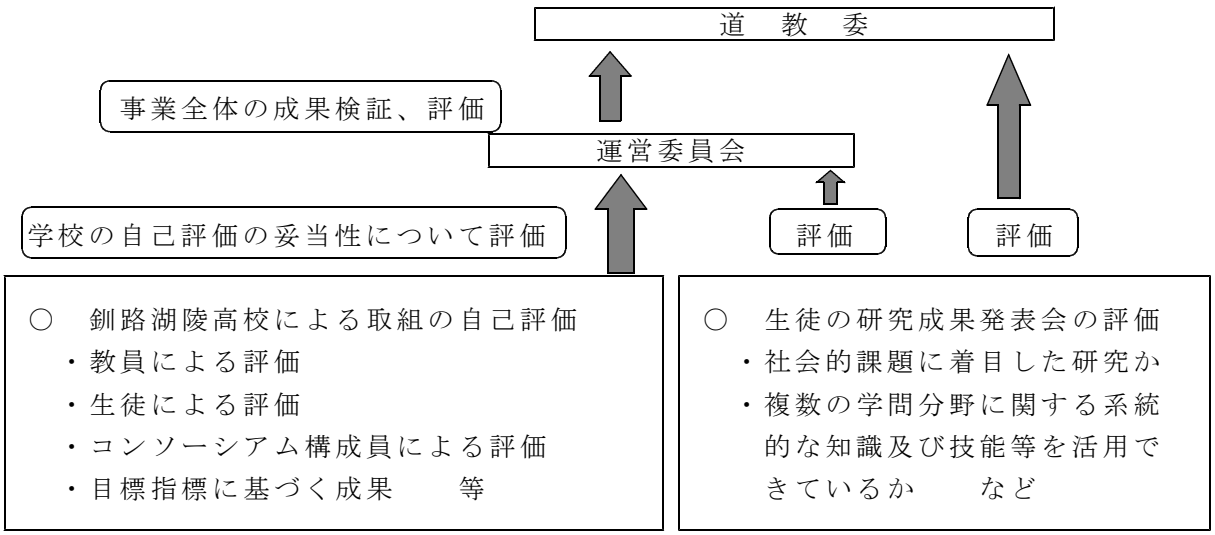
「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.6　　令和４年10月31日発行　　発行　探究科設置準備委員会

今回は事業の実施体制（２）について掲載します。（２）は管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方についてお知らせします。

1　事業全体の成果検証、評価のための体制



2　事業全体の成果検証、評価の考え方

次の２つの方策により、事業全体の成果検証、評価を行う。

（１）学校の自己評価を基に、運営指導委員会及び北海道教育委員会（以下「道教委」という。）が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

ア　学校において、教員、生徒及びコンソーシアム構成員を対象としたアンケートによる評価等を基に本事業の取組について自己評価を行う。

イ　運営指導委員会において、学校の自己評価の妥当性について評価を行う。

ウ　道教委において、「北海道高等学校学力学習状況等調査」を実施し、目標指標に基づく成果の検証を行う。

・ 本調査は毎年度の１学年が対象。これに加え、本校独自に各学年で同調査を実施し、本校に入学した生徒の１学年から３学年までの変化を把握する。

エ　ア、イ及びウを踏まえ、道教委において事業全体の成果検証、評価を行う。

（２）生徒の研究成果を基に、運営指導委員会及び道教委が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

年１回開催する生徒の研究成果発表会について、教員、コンソーシアム構成員、地域住民、道教委が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。評価結果については、高校のウェブページに掲載する。

・社会的課題に着目した研究か

・複数の学問分野に関する系統的な知識及び技能等を活用できているか　など

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.7　　令和４年11月7日発行　　発行　探究科設置準備委員会

今回は事業の実施体制（３）について掲載します。（３）では新学科を設置する高等学校における事業の管理方法についてお知らせします。

1　実施体制

下記のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理していく。

学校長

新学科設置準備委員会
（副校長、教務部長、進路指導部長、ＳＳＨ推進部長、事務主任、コーディネーター）
・副校長、教務部長、進路指導部長、ＳＳＨ推進部長、事務主任、コーディネーターからなる新学科設置準備委員会を設置し、教務部からの原案を検討
・本事業の成果や本事業で得られた関係機関からの知見をＳＳＨの取組に還元

原案提出　↑　↓　意見

教務部（コーディネーターは教務部に位置付け）
・事業に関係する教育課程の編成・実施
・新学科設置準備委員会に総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目の原案提出
※コーディネーターは原案作成に係る企画・立案、関係機関との調整を行う
・新学科設置準備委員会の意見を受けて案を修正
・教員、生徒等へのアンケートの実施
・各教科部会の取組状況等の報告の集約及び校内での情報の共有
・新学科設置準備委員会にアンケートや成果指標の到達状況の分析案を提出

2　事業の管理方法

（１）コーディネーター
教務部に位置付け、総合的な探究の時間及び学際領域に関する学校設定教科・科目の実施に向けた企画・立案、関係機関との連絡調整を行う。

（２）校務分掌「教務部」
・総合的な探究の時間及び学際領域に関する学校設定教科・科目の計画原案を作成し、新学科設置準備委員会に提出するとともに、新学科設置準備委員会からの意見を受けて原案を修正する。
・各教科における取組状況等の報告の集約及び好事例となる取組の情報収集を行い、校内で共有する。
・教員、生徒等へのアンケートを実施し、結果及び成果指標の達成状況についての分析原案を新学科設置準備委員会に提出するとともに、新学科設置準備委員会からの意見を受けて原案を修正する。

（３）校内組織「新学科設置準備委員会」
・副校長、教務部長、進路指導部長、ＳＳＨ推進部長、事務主任、コーディネーターからなる新学科設置準備委員会を設置し、教務部の原案を受け、総合的な探究の時間及び学際領域に関する学校設定教科・科目の計画を検討する。
・教員、生徒等へのアンケート結果及び成果指標の到達状況についての分析案を検討する。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.８　令和４年11月14日発行　発行　探究科設置準備委員会

本号から学際領域学科における取組について掲載します。今回は（１）学際領域学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容についてお知らせします。

１　取組の目的

「探究のプロセス」を複数回繰り返す実習、教科間連携、科学への芸術分野からのアプローチ等、主体性や創造性の育成、気付きや多角的な視点の獲得に特化した探究の講座を開発、実施することで、先鋭的な領域へ挑戦しうる研究者としての資質・能力を育成する。

２　主な取組

「総合的な探究の時間」及び学校設定教科に関する科目における「探究活動」

３　取組の特色

（１）選択した領域内で生徒自らがテーマを設定する探究活動の実施

（２）釧路湖陵高校として継続的に取り組むべき領域（釧路湿原、釧路市街地の活性化、津波・防災）で釧路総合振興局等、地域の関係機関と連携する地域探究活動の実施

【探究領域の例】

分類番号	領域	備考
1	環境科学系 （生物多様性、エネルギー資源等）	・選択した領域内で生徒がテーマを設定 ・特定の学問領域にとどまるものではなく、必要に応じて領域を超えて研究する
2	人間科学系（医療・健康、心理等）	
3	生活科学系 （歴史・文化、エコロジー等）	
4	国際理解系 （ｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｾﾞｰｼｮﾝ、異文化理解等）	
5	現代課題系（人権・福祉、平和等）	
6	情報科学系 （ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾃｸﾉﾛｼﾞｰ等）	
7	釧路湿原（環境系含む）	・釧路湖陵高校として継続的に取り組むべき領域
8	津波・防災	
9	釧路市街地の活性化	

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.９　令和４年11月21日発行　発行　探究科設置準備委員会

前回から学際領域学科における取組について掲載しています。今回は（２）コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法についてお知らせします。

１　連携・協力体制の構築の考え方

本校において、本学科の設置による、生きた学びの研究・実践は、北海道内外を牽引する人材の育成やそれに先立つ目的意識を持った進学に寄与するものであり、このような取組は、道内はもちろんのこと全国のモデルケースとなるものであり、本校のスクール・ミッションを踏まえ、次代を担うグローバルリーダー・イノベーターを育成するため、高校と地域をつなぐコーディネーターを配置し、大学や国の機関、国際的な機関、地元機関などとコンソーシアムを構築して連携・協働した教育活動を実施する。

２　連携・協力体制の構築の方法

（１）コーディネーターの任用

（２）コンソーシアムの構築

・コンソーシアム規約の整備

・コーディネーターを中心に、生徒の探究活動のテーマに関連する大学、国の機関、国際機関等とのコンソーシアムを構築

・必要に応じて随時拡大、構成員の変更を実施

ちなみに本校のコンソーシアム「**チーム湖陵**」の構成員は以下のとおりです。

１　本校教職員

・コンソーシアムの構築、運営及び会議の開催等に係る業務

２　プロモーターメンバー

・教育活動への支援のほか、コンソーシアム会議に参加し、学校の教育活動に対し、指導・助言を行う

・大学・自治体・事業所（北海道大学、北海道教育大学釧路校、釧路市、北海道教育庁、釧路商工会議所等）に関して、現在構成員を調整中

３　サポーターメンバー

・学際的・複合的な学際分野や新たな学問領域に対応すべく、学校やプロモーターメンバーの要請に対して、必要に応じて、ワンポイントで学校の教育活動を人的・物的に支援

・道内外の大学等や自治体等、釧路市内外の各事業所、国際機関、国の機関、研究機関等、現在構成員を調整中

※プロモーター・サポーターメンバーは、探究活動成果発表会に出席し、生徒の活動への指導・助言を行う

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.10　令和４年11月28日発行　発行　探究科設置準備委員会

本号も引き続き学際領域学科における取組について掲載します。今回は新学科の設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施についてお知らせします。

1　中学生やその保護者、地域住民への説明

（１）学校説明会

・本校を志望先として考える中学生を対象とした学校説明会において、新学科の目的、教育内容、想定する進路などについて説明を行う。

（２）中学校における進路説明会

・地元中学校における進路説明会において、本校に関する説明内容として、新学科の目的、教育内容、想定する進路などについて中学校教員から生徒に対して説明するよう依頼する。

（３）中学校進路担当者会議（仮称）における説明会

・中学校の進路指導担当者に対する説明会を実施し、新学科について周知する。

（４）地域別検討協議会

・道教委が毎年開催している地域別検討協議会において、新学科の目的、教育内容、想定する進路などについて出席者に対し説明を行う。

ア　地域別検討協議会の概要

高校を取り巻く様々な課題について、通学区域ごとに市町村関係者及び学校関係者等と意見を交換し、地域との連携を深めるために道教委が実施する協議会。

イ　時期　４月及び７月

ウ　内容　次年度以降の公立高等学校配置計画についての説明及び協議等
高校の魅力化・特色化に向けた地域社会との協議についての意見交換等

エ　参集範囲　市町村長、市町村教育委員会教育長、高等学校長及び中等教育学校長、中学校長、小学校長、地区協議会またはＰＴＡ関係者、私学関係者、経済団体関係者

（５）学校ウェブページ及び学校案内パンフレット

（６）チラシ、ポスターの作成

・学際領域に関する学科の周知を図るため、チラシやポスターを作成し、中学校、学習塾等へ配布する。

（７）地元自治体の広報誌

・地元自治体の発行する広報誌に新学科の目的、教育内容、想定する進路などについて記載するよう依頼する。

（８）地元マスメディア等を活用した周知

・地元コミュニティＦＭ局や高校受験関連雑誌等に取材を依頼し、学際領域に関する学科について周知する。

（９）学習塾との連携

・学習塾関係者に対する説明会を実施し、学際領域に関する学科について周知する。

2　在校生及び保護者への説明

・全校集会における学校長からの説明及び保護者向け文書により、新学科に関する説明を行う。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.11　　令和４年12月5日発行　　発行　探究科設置準備委員会

前号まで、学際領域学科の設置に係わる事項を掲載してきました。今回からは令和６年度までの実施計画について、お知らせします。本号は（１）３ヶ年の実施計画の概要です。

１　令和４年度

・コーディネーターの人選
・コンソーシアム構築に向けた校内体制の整備
・コンソーシアム構成員の依頼と決定、規約の整備
・先進校視察
・学際領域学科に係るスクール・ポリシーの策定
・新学科の設置に向けた教育課程の検討
・新学科の設置に向けた総合的な探究の時間及び学校設定教科に関する科目の内容の精査
・運営指導委員会（年２回）の開催、進捗状況報告
・生徒の研究成果発表会の開催
・海外の高校とのオンライン交流
・事業１年目の成果検証、評価
・事業１年目の報告書の作成

２　令和５年度

・コンソーシアムと連携した教育活動の実施
・新学科の設置に向けた教育課程の検討
・新学科の設置に向けた総合的な探究の時間及び学校設定教科に関する科目の内容の精査
・他都府県の指定校との交流
・運営指導委員会（年２回）の開催、進捗状況報告
・生徒の研究成果発表会の開催
・海外の高校とのオンライン交流
・事業２年目の成果検証、評価
・事業２年目の報告書の作成

３　令和６年度

・新学科設置
・研究指定校終了後の自走に向けた体制整備
・運営指導委員会（年２回）の開催、進捗状況及びこれまでの成果報告
・生徒の研究成果発表会の開催
・海外の高校とのオンライン交流
・事業３年目及び事業指定３年間の成果検証、評価
・事業３年間報告書の作成

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.12　令和４年12月12日発行　発行　探究科設置準備委員会

前号で事業の３ヶ年の実施計画の概要をお知らせしました。本号では事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組みについて掲載します。

１　進捗状況の定期的な確認

（１）学校内での確認

ア　新学科設置準備委員会における進捗状況の報告

イ　自己評価の実施

・教員による評価（アンケートの実施）

・生徒による評価（アンケートの実施）

・コンソーシアム構成員による評価（アンケートの実施）

・目標指標に基づく成果（「北海道高等学校学力学習状況等調査」の分析）

（２）運営指導委員会での確認

・年２回の運営指導委員会における進捗状況の報告

・年度末の運営指導委員会において学校の自己評価の妥当性について評価を実施

（３）コンソーシアム会議での確認

・年２回のコンソーシアム会議において連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議

（４）生徒の研究成果発表会における確認

・年１回開催する生徒の研究成果発表会において教員、コンソーシアム構成員、地域住民、道教委が参加し、生徒の学びの深まりについて評価を実施

２　事業の改善の仕組み

（１）校内体制

・進捗状況の報告や自己評価を基に、新学科設置準備委員会を中心としたカリキュラムの研究・開発の課題解決に向けて対応する。

・その際、校内の各分掌及びコンソーシアム構成員等との連絡・調整については、コーディネーターが中心となって行う。

（２）運営指導委員会

・第１回の運営指導委員会における進捗状況報告を基に、目指すべき方向性等について指導助言するとともに、必要な情報提供を行う。

・第２回の運営指導委員会における進捗状況報告及び学校の自己評価を基に、課題とされる事項について、解決方策について指導助言を行う。

（３）管理機関

教育局の指導主事が年２回訪問し、事業の取組状況の把握や効果的な取組について指導助言を行う。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.13　令和４年12月19日発行　発行　探究科設置準備委員会

本号では１成果の普及のための仕組み、２国の指定終了後の取組継続のために仕組みについて掲載します。

１　成果の普及のための仕組み

１　成果発表会・報告会の開催

・成果発表会・報告会を一般公開で開催

２　ウェブページ等による成果の発信・普及

・成果発表会・報告会の様子について、学校ウェブページを通して地域に発信するとともに、記事にしてもらうよう、報道機関への情報提供を行う。

・パンフレットを作成し、釧路・根室管内の小中学校に配布するなどの広報活動を行う。

３　「教育課程編成・実施の手引」

・道教委が毎年作成している「教育課程編成・実施の手引」において、本事業における取組事例を掲載する。

４　「教育課程研究協議会」

・全道立高校から参加のある教育課程研究協議会において、本事業における取組の研究発表を行う。

５　「探究サミット」

・道教委の他の指定事業も含めて探究活動に取り組んでいる学校等の代表による成果発表会「探究サミット」において成果を発表し、その様子を道内の各高等学校にウェブで配信するとともに、発表の概要を記載した探究サミット報告書を送付する。また、指導主事の学校訪問において先進事例として取り上げ、探究活動に躓きが見られる学校に助言する。

２　国の指定終了後の取組継続のための仕組み

１　コンソーシアム

・指定事業の３年間で構築したコンソーシアムとの関係性を生かし、事業終了後もコンソーシアムを引き続き設置し、学校と地域が一体となって課題を解決できるよう、適宜情報を共有しながら地域と連携・協働した教育活動を実施する。

２　コーディネーター

・事業指定の３年間の間に、地元自治体と事業終了後におけるコーディネーター任用について協議を進める。例えば地域おこし協力隊員を本校に配置し、コーディネーターの役割を担っていただくことなどが想定される。

３　校内体制

・新学科設置後はカリキュラム委員会を中心として、全校体制で教育課程の編成・実施・評価・改善を継続して行う。

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.14　　令和５年３月15日発行　　発行　探究科設置準備委員会

３月７日・８日に実施した他校との交流事業について、概要を報告いたします。

１　和歌山県立橋本高等学校とのオンライン交流
日時：３月７日（火）15:25～16:15

１月に視察させていただいた橋本高校からお声かけをいただき、橋本高校２年生と本校普通科１年生がオンラインでの交流を実施しました。橋本高校・湖陵高校とも５グループが参加し、グループ毎に自己紹介から交流が開始されました。発表生徒以外は各教室で交流の様子を見学しました。内容は以下のとおりです。

（１）橋本高校生徒の発表と質疑応答

橋本高校はユネスコスクールに指定されており、その中で「SDGsの達成を視野に入れた学習」を年間を通して実施しています。

２年生はSDGsの目標について課題を設定し探究活動を行っており、その成果を発表し本校生徒と質疑応答を行いました。

（２）本校生徒の発表と助言

２年生での探究活動のテーマ設定を終了したところで、テーマ設定の理由や今後活動計画について発表し、橋本高校の生徒からの質問や助言を受けました。

（３）自由交流

発表後は、学校生活のこと、それぞれの地域のことなど短い時間ではありましたが、グループ毎に自由に話題を出し合い、楽しく話し合いができた様子でした。

橋本高校は、高野山の麓に位置しており世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や地域の文化財等に関する学習もしています。今回は、初めての交流ということで、７校時を活用して小グループ・短時間の実施でしたが、これをきっかけに次年度以降も交流事業が継続できるよう、検討を重ねていきたいと考えています。発表生徒の選出や会場の準備等、１学年とＳＳＨ推進部の先生方に多くのご協力をいただき、この交流事業を終了することができました。

２　京都市立西京高等学校との交流
日時：３月８日（水）8:45～10:30

京都市立西京高等学校は、１年生が３月５～10日の５泊６日の日程で、国内フィールドワークとして「北海道・東北・中部・瀬戸内・北九州・南九州・沖縄」の７コースに分かれて研修旅行を実施しています。昨年１１月に本校校長と進路指導部長が学校視察をしたのがご縁で、今回の交流が実現しました。北海道コースの生徒60名と先生３名が、来校されました。

（１）講演会

演題　「くしろよろしく～釧路の歴史と産業」
講師　釧路新聞社代表取締役社長　星　　匠　様

本校の卒業生でもあります星匠様に講演していただきました。自己紹介、北海道の広さや釧路湿原と自然環境についてから、お話が始まりました。釧路の３大産業（漁業・鉱業・製造）をクイズ形式を交えて解説していただきました。釧路港で水揚げされる魚種や漁獲量、太平洋炭礦や釧路炭田のお話、製紙工場の変遷など詳細な説明がありました。さらに、釧路振興局管内の発展の歴史、酪農に関して、釧路と京都を結ぶものなどについて、多くの事例を交えて講演していただきました。

西京高校の生徒が釧路を知ることだけでなく、湖陵高校の生徒にとっても改めて釧路を見直す機会となったのではないでしょうか。

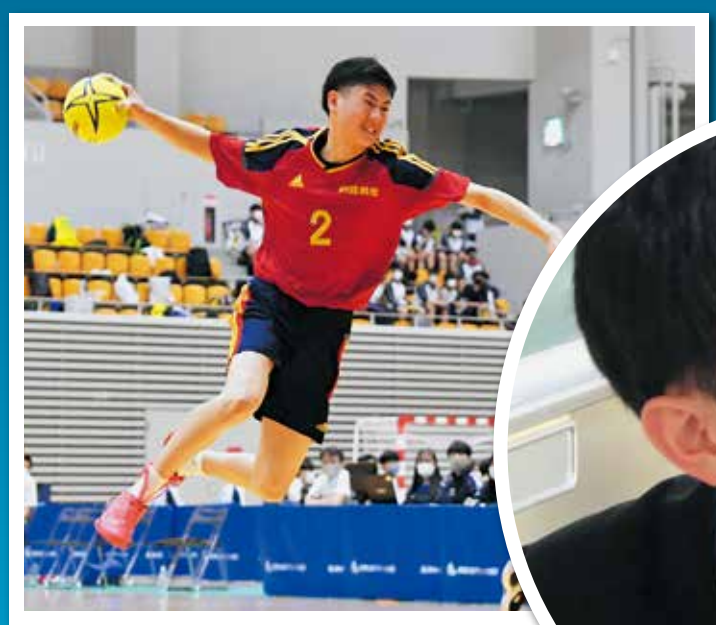
（２）探究成果交流会

西京高校の探究発表のテーマは「私たちが残したい・伝えたい流氷の価値」で、これは、今回のフィールドワークに際して知床大学院大学設立財団に設定していただき、出発前に探究活動に取り組んだそうです。３月６日に財団の方にプレゼンテーションを実施し、その中から４グループが本校で発表しました。

流氷の自然的価値や観光的価値に着目し、流氷がもたらす豊かな自然の恵みについて、それらを維持するための環境保護について、流氷を活用した地域観光の活性化に関する方策などに関して、それぞれのグループが探究成果を発表しました。

質疑応答では、本校生徒から流氷を身近に感じて生活している視点からの質問などがあり、短時間ではありましたが意見の交換ができました。

やりたいことをやってみる



令和6年度から普通科がスーパーな普通科に変わります！

道内初の新学科設置

※学科の名称は「(仮)文理探究科」を検討中

夢中になれる学びが湖陵にある

湖陵の普通科は、大学入試改革に対応した**「進学型スーパー普通科」**に生まれ変わります。

この新しい普通科では、生徒の興味・関心や将来目指す職業などに応じて、探究的な学習に取り組みながら、**ハイレベルな大学合格を目指す**ことができます。

国内外の大学や国際機関、企業等による**「コンソーシアム」を設置**し、生徒の多様な学習ニーズに応えます。

高き希望を湖陵で実現

北海道 釧路湖陵 高等学校

【文部科学省指定】
スーパーサイエンスハイスクール事業
新時代に対応した高等学校改革推進事業

【北海道教育委員会指定】
地域を支える人づくりプロジェクト事業
（医進類型指定校）

令和6年度から普通科が

スーパーな普通科に変わります!

道内初の新学科設置

※学科の名称は「(仮)文理探究科」を検討中

答えのない課題に取り組む今、時代は「探究」

やりたいことをやってみる

夢中になれる学びが湖陵(ここ)にある!

湖陵の普通科は、大学入試改革に対応した**「進学型スーパー普通科」**に生まれ変わります。

この新しい普通科では、生徒の興味・関心や将来目指す職業などに応じて、探究的な学習に取り組みながら、**ハイレベルな大学合格を目指す**ことができます。

国内外の大学や国際機関、企業等による**「コンソーシアム」を設置**し、生徒の多様な学習ニーズに応えます。

北海道 釧路湖陵 高等学校

【文部科学省指定】
スーパーサイエンスハイスクール事業
新時代に対応した高等学校改革推進事業

【北海道教育委員会指定】
地域を支える人づくりプロジェクト事業(医進類型指定校)